

# 富士中だより

八丈町立三根学園富士中学校 令和4年11月18日 第7号

ホームページ <http://www.hachi.jomachi-kyo.ed.jp/fuji-jhs/>

◇ 学校教育目標 ◇  
自ら進んで学ぶ生徒  
人や自然を愛する生徒  
健康でねばり強い生徒  
《校訓：自主・敬愛・根気》

## ～耕さない農業から学ぶ～

校長

大きな行事が続く2学期もようやく後半に入りました。富士中三大行事である運動会、八丈管内陸上記録会、合唱コンクールを終えるとともに、1年生は読み聞かせ学習の準備、2年生は移動教室後のまとめ学習、3年生は進路決定に向けて追い込みの時期となりました。来週には期末考査を控え、計画的に準備を行っています。10月に行われたワンランクアップ学習会から自分の学習方法の再点検が行われ、より効率よく学習する方策を身に付けられたことでしょうか。行事の取組で時間確保が大変な時期が続きましたが、日々の勉強時間をゼロにせず、予習、復習に継続して取り組んできた人たちにとっては勉強の面白さを自覚できる時期になります。また、継続学習をおろそかにしてしまった人たちも、帳尻合わせに集中力で遅れを取り戻していることでしょうか。富士中では行事はもちろん、日々の授業でも皆さんが主体的に学習に取り組む時間を増やすことにより、自己有用感を高める機会を増やしています。いつも勉強の主役は自分であり、成長した自分をほめるために振り返る時間を確保してください。

八丈に暮らして4年が過ぎようとしています。時折知り合いから頂いた、農作物の新鮮な味わいに元気をもらっています。とはいえ、怠け者の私には水をあげたり、耕したり、肥料や防虫剤をまいたり、雑草を取り除いたりする数々の農作業は実現不可能な道のりです。そんな時、新聞で「耕さない農業」について特集が組まれていたのを目にしました。もしかしたら、苦勞せずに美味しい農作物を作れるかも？と興味を抱きました。

アメリカ中西部ノースダコタ州のブラウンさんの農場はもう25年以上も耕していません。もちろん、農薬や化学肥料も使っていないにもかかわらず、雑草はほとんど生えないそうです。穀物や商品作物の合間に、土壌を健康に保つために、ヒマワリやササゲなど12種の被覆作物を育てているだけだそうです。マメ科植物で被覆すると、肥料なしでも生育に必要な窒素が十分に得られ、発芽抑制物質によって雑草も抑えられるようです。その結果、土の中の微生物や動物が元気になり、生物多様性が豊かになって土も健康になるようです。肥沃な土の中にミミズが居るのはアメリカも日本も同じのようです。

とはいえ、耕すという行為は農業の基本で、人類が農業を始めてからずっと続いてきたものです。耕すことで土壌の構造をふかふかにし、水がたまりやすいようにして、人間の飼いやらした植物を自然の厳しさから守ってきたという歴史があり、耕すことは人類の文化の基本であるといわれます。そんな長い歴史に大きな変化を与えたのが20世紀に登場したトラクターだそうです。トラクターは化学肥料とセットで20世紀初頭から世界中に広まり、その結果、収穫量が劇的に上がり、世界人口の増加につながったといわれています。しかし、農業のスピード化により、家畜の糞尿を長時間で堆肥にして、土壌に変えるエネルギー循環も断ち切られてしまいました。農業の工業化で自然がもつ回復力を発揮できず、土壌が劣化していったようです。どんなに化学肥料をまいても微生物が生息しない土では元気な作物は育たなくなるようです。

上記のブラウンさんは土の健康を守るために「土の健康5原則」を打ち立てました。①土を耕さない、②土を覆う、③数十種の野菜や穀物、花を一緒に育てる、④1年中、何かしらの植物を育てる、⑤動物を組み込む。ただ、日米で気候も農場の規模も違いますが、ブラウンさんは「原則は同じ。栽培する作物や使う道具は違うかも知れないが、その土地に根ざしたやり方でやれば世界中のどこでも土はよみがえる」とおっしゃっています。

安易な気持ちで耕さない農業に興味を持った私ですが、改めて美味しい農作物を作るためには、きめ細かい配慮だけでなく、その農作物がもっている自然の力を引き出すために土台となる土を育てる大切さを学ぶことができました。この考えは、今の教育の現場にも当てはまることではないかと考えました。高度経済成長を支えた日本の教育は知識偏重で何でも早く、正確にできる人材育成につながっていきました。しかし、経済成長が止まると、国際社会での遅れを取り戻すために日本の教育も大きく方向転換しました。その結果、子供のもつ能力や多様性を認め、ほめて、自身の興味関心を引き出し、継続して取り組める学校を目指すようになりました。まさに、工業化によって、硬直した土が、微生物や動物の力を活用して生き生きと農作物が成長できる土となったように学校も転換期を迎えています。生徒が安心して、自分らしさを大切にして成長できる学校にするためには膨大な最新情報より、家庭や地域の方々に愛され、身近な方々との関わりの中で一步一步成長していくことの方が大切だと思います。そして、生まれ育ったふるさとを愛して、未来を生き抜く力を身に付けてほしいです。

(出典記事は朝日新聞より)

## ちょんこめ作業所訪問（3年生）

3年生は10月18日（火）の5・6時間目に「総合的な学習の時間」の活動として、ちょんこめ作業所を訪問しました。作業所ではまず、利用者の皆さん一人一人が自分の趣味や関心のあることをクイズの形式にして自己紹介してくださいました。富士中生は2つのグループに分かれてクイズの正解数を競いあうことに参加しましたが、通り一遍の自己紹介よりも理解を深めることができました。

その後、作業の様子を見学させてもらいました。シルクスクリーンを使ったカバンや手ぬぐいの絵付けや古布での草履の作成、



雑巾づくりなどの作業や、アルミ缶の仕分けやプレス作業を見学しました。利用者の皆さんが一生懸命に、そして真剣に作業をされている姿を目の当たりにし、感動や尊敬の念を感じていました。

ちょんこめの活動は作業所内での仕事の他に、島内の公共トイレの清掃や花壇の手入れなども行っていることを知り、感謝や協力する気持ちなど、色々な想いをもつことができました。この機会を、今後共生社会を実現していく当事者としての自覚や行動につなげていってほしいです。

（担当：3学年教員）

## ♪♪♪ エアロビクス ♪♪♪

体力向上の活動の一環として、ふじしばすくえあ。にて「エアロビクス」に取り組みました。昨年度に引き続き、今年度もインストラクターの方にご指導いただきました。音楽に合わせてウォーキングやステップなどの簡単な有酸素運動と、成長期の中学生の骨や筋肉に合わせたけが予防のストレッチなどを行いました。多くの人が基本のステップまでは余裕を見せていましたが、それらを続けたり組み合わせて行くと混乱する人もちらほらと。それでもお互いに教え合いながら笑顔で取り組んでいました。体力に自信がある、ないにかかわらず全員が楽しみながら体力向上に努めることができました。

（担当：生活指導部）



# 合唱コンクール

今年度も、合唱コンクールを10月5日（土）におじゃれホールにて無事に開催することができました。感染症予防の観点から、昨年度から引き続きマスク着用での練習や人と人との距離、合唱隊形などに制限を加えて練習を行いました。どの学年も限られた期間での練習に一生懸命取り組み、精いっぱい歌声をホールに響かせました。

各学年とも銀賞という結果になりましたが、どのクラスも練習期間に自分たちで考え、意見を出し合い話し合いながら練習に取り組み、当日の演奏では最も良い合唱を響かせることができました。学年ごとに基準は違うので単純な比較はできませんが、それぞれの学年の持ち味が存分に発揮された合唱でした。なかでも3年生は人数の少なさを感じさせない、気持ちのこもった合唱を披露し、アンコール合唱でコンクールの最後に花を添えました。今年のスローガンである「笑顔でやろごん〜響かせよう心と歌声〜」の通り、皆が笑顔で楽しく、心と歌声を響かせ合って終わることのできた素敵な合唱コンクールになりました。

今後もしばらくは、学校における歌唱活動で、感染症予防に注意を払い制限が必要になると予想されます。そのような中ではありますが、生徒の皆さん一人ひとりが合唱や歌唱表現を通して、より表現力豊かになってほしいです。また、今年度の練習を生かし、来年の合唱コンクールがさらに素晴らしいものになることを期待しています。

(担当：音楽科)



## 合唱コンクール実行委員長 感想文

「中学最後の合唱コンクール」 3年

私は2、3年生で実行委員をやり、今回は実行委員長を務めました。正直に言うと1、2年生のときは合唱コンクールが好きではありませんでした。私のクラスは人数が少なく、金賞なんて無理だと思っていたからです。

しかし3年生になって初めてのクラスでの合唱練習のとき、私は本当に驚きました。そこにはパートリーダーや、指揮、伴奏の人たちを中心に音取りをしたり、みんなで意見を出し合ったりする姿がありました。去年の結果をバネに今年はみんな本気なんだと思いました。そして他の学年も見てみると、1、2年生だからと言い訳することなく私たち3年生と同様に本気で金賞を取ろうとしているのがわかりました。全学年がクラス一丸となって金賞を取ろうとしている姿を見て、より実行委員の仕事を頑張ろうと思いました。また、クラス合唱、有志合唱も全力で頑張ろうと思えました。

今年のスローガン「笑顔でやろごん〜響かせよう 心と歌声〜」は、みんなが笑顔で歌うことを大切にし、歌っている自分たちや聴いているお客さんの心に歌声を響かせよう、という思いを込めて決めました。今年の合唱コンクールの結果は全学年銀賞で、目指していた金賞へは一步届かなかったけれど、全学年が笑顔で終わることができて良かったです。

## クラスアピール担当生徒 感想文

「三年間の集大成」 3年

今回の合唱コンクールがこのメンバーで歌える最後の合唱でした。1、2年生の時は銅賞で、今年是不安しかありませんでした。3年生としてのプレッシャーもありました。「今年こそは金賞。」この気持ちが全面に表れていた練習や合唱でした。本番では、今までの合唱練習でやってきたことをすべて出し切ったと思います。結果は銀賞だったけれど、一人一人の胸の中に残る良い思い出になりました。

「チャレンジ」 2年

僕は、この合唱コンクールでクラスのために頑張りたいと思っていました。パートリーダー、指揮者、クラスアピールなど、いろいろなことにチャレンジしました。みんなをまとめるのは大変でした。しかし、みんなで協力し合い、まとめることができました。たくさん練習して指揮もうまくなり、クラスアピールも文章を覚えしっかり準備しました。本番は、最初の発表のため緊張で手足が震え、頭が真っ白になったのですが、やりきることができました。

「become a hero」 1年

小学校以来の合唱は大変でした。僕は合唱だけでなく、クラスアピールという担当もありました。クラスの人から推薦で選ばれたのです。クラスアピールは課題曲と自由曲の間に前に出て、指揮台に立ち、自由曲の紹介と僕達はどうなクラスかをマイクの前で話します。アピール文章は友達と先生と一緒に作ってくれて助かりました。ちょっと失敗したけれど自分では78点だと思います。合唱の銀賞は悔しかったので、来年は金賞を目指します。

## 12月の主な予定

12月 4日(日) P連卓球大会

5日(月) 学校朝礼

三者面談(始)

7日(水) 職員会議

13日(火) 三者面談(終)

14日(水) 研修会

15日(木) 避難訓練

委員会

19日(月) 生徒会朝礼

21日(水) 職員会議

22日(木) 大掃除

23日(金) 終業式

26日(月) 冬季休業日(始)